

2010年10月

1.新聞・テレビ等

該当無し

2.誌上発表(原著論文)

(生薬部)

- 佐藤正幸*, 袴塚高志, 姉帯正樹*, 鎌倉浩之, 合田幸広
*北海道立衛生研究所
漢方処方煎液の乾燥工程における残留有機リン系農薬の消長
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, **41**(10), 816-822 (2010)

(遺伝子細胞医薬部)

- Rasmussen, I.^{*1}, Pedersen, L.H.^{*1}, Byg, L.^{*1}, Suzuki, K., Sumimoto, H.^{*2}, Vilhardt, F.^{*1}
^{*1}Copenhagen University, ^{*2}九州大学
Effects of F/G-actin ratio and actin turn-over rate on NADPH oxidase activity in microglia (ミクログリアのNADPH オキシダーゼ活性に及ぼすF/G アクチン比とアクチンターンオーバー速度の影響)
BMC Immunology **11**:44 (2010)

(医療機器部)

- 澤田留美、山田貴史、土屋利江*、松岡厚子
*大阪大学医学部附属病院未来医療センター
ヒト間葉系幹細胞の網羅的遺伝子発現解析 —無血清培地を用いた *in vitro* 培養期間中の遺伝子発現の変化について—
薬学雑誌, **130**(10), 1387-1393 (2010)

(生活衛生化学部)

- Ohkawara, S^{*1}., Tanaka-Kagawa, T., Furukawa, Y., Nishimura, T., Jinno, H.
^{*1}Musashino University
Development of a SYBR Green Real-time Polymerase Chain Reaction Assay for Quantitative Detection of Human *N*-methyl-D-aspartate Receptors Subtype 1 Splice Variants (ヒト *N*-メチル-D アスパラギン酸受容体サブタイプ1 スプライス変異体の定量的検出のためのサイバーグリーンリアルタイム PCR 法の開発)
J. Health Sci. **56**(5),527-533(2010)
- Tahara, M., Kubota, R., Shimizu, K., Sugimoto, N., Nishimura, T.
Risk assessment of fention oxide derivatives in aqueous environment. (水環境中のフェンチオン酸化物類のリスク評価)
J. Water Environ. Technol., **8**(3), 215-221(2010)

(食品添加物部)

- 秋山卓美, 林 歩美^{*1}, 山崎 壮, 多田敦子, 杉本直樹, 尹 永淑^{*1}, 功刀彰^{*1}, 棚元憲一^{*2}, 河村葉子
^{*1}東京薬科大学, ^{*2}武蔵野大学
TLC と GC/MS を用いたテルペノイド系ガムベースの識別法
食品衛生学雑誌, **51**(5), 264-272 (2010)
- 多田敦子, 高橋加奈, 杉本直樹, 末松孝子^{*1}, 有福和紀^{*1}, 斎藤 剛^{*2}, 井原俊英^{*2}, 吉田雄一^{*3}, 石附京子, 西村哲治, 山崎 壮, 河村葉子
^{*1}日本電子株式会社, ^{*2}独立行政法人産業技術研究所, ^{*3}和光純薬工業株式会社
定量 NMR に基づく既存添加物中のクエルセチンおよびクエルセチン配糖体の絶対定量

- 食品衛生学雑誌, **51**(5), 205-212 (2010)
六鹿元雄, 山口未来, 大野浩之^{*1}, 河村葉子
^{*1}名古屋市衛生研究所
ナイロン製品からのモノマーおよび芳香族第一級アミン類の溶出
食品衛生学雑誌, **51**(5), 228-236 (2010)
- 尾崎麻子^{*1}, 大嶋智子^{*1}, 大垣寿美子^{*1}, 河村葉子
^{*1}大阪市立環境科学研究所
ポリ乳酸製器具・容器包装の含有物質の検討および溶出液の変異原性
食品衛生学雑誌, **51**(5), 220-227 (2010)

(衛生微生物部)

- 田中廣行^{*1}、土屋 禎^{*1}、大島赴夫^{*2}、鈴木達也^{*2}、工藤由起子。
^{*1} (財) 日本食品分析センター、^{*2} (財) 食品薬品安全センター
技能試験データに基づく細菌数の不確かさの推定。
日本食品微生物学会雑誌. **27**: 158-162, 2010.
- 森 哲也^{*1}、田中廣行^{*2}、和田真太郎^{*1}、伊藤 武^{*1}、宇田川藤江^{*2}、工藤由起子。
^{*1} (財) 東京顕微鏡院、^{*2} (財) 日本食品分析センター
市販の生食用カット野菜, カット果実およびスプラウトの微生物汚染調査。
日本食品微生物学会雑誌. **27**: 163-170, 2010.
- libuchi, R. ^{*}, Hara-Kudo, Y., Hasegawa, A. ^{*} and Kumagai, S. ^{*}
^{*}東京大学
Survival of Salmonella on a polypropylene surface under dry conditions in relation to biofilm-formation capability. (乾燥条件でのポリプロピレン表面でのサルモネラの生残性とバイオフィルム形成能の関連について)
J. Food Prot. **73**:1506-1510, 2010.

(有機化学部)

- Demizu, Y., Tanaka, M. ^{*1}, Doi, M. ^{*2}, Kurihara, M., Okuda, H., Suemune, H. ^{*3}
^{*1}長崎大院医歯薬, ^{*2}大阪薬大, ^{*3}九大院薬
Conformations of peptides containing a chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acid within the sequence of Aib residues (キラル環状ジ置換アミノ酸導入 Aib ペプチドのコンフォメーション)
Journal of Peptide Science **16**, 621-626 (2010)

(代謝生化学部)

- Takabatake, R. ^{*1}, Futo, S. ^{*2}, Minegishi, Y. ^{*3}, Watai, M. ^{*4}, Sawada, C. ^{*5}, Nakamura, K., Akiyama, H., Teshima, R., Furui, S. ^{*1}, Kitta, K. ^{*1}
^{*1}National Food Research Institute ^{*2} FASMAC Co., Ltd., ^{*3} NIPPON GENE Co., Ltd., ^{*4} Japan Food Research Laboratories, ^{*5} Japan Frozen Foods Inspection Corp
Evaluation of quantitative PCR methods for genetically modified maize (MON863, NK603, TC1507 and T25) (遺伝子組換え大豆(MON863, NK603, TC1507 and T25)を検出する定量PCR法の評価)
Food Science and Technology Research, **16**, 421-430 (2010)
- Nakamura, K., Fujioka, S. ^{*1}, Fukumoto, S. ^{*1}, Inoue, N. ^{*2}, Sakamoto, K. ^{*1}, Hirata, H. ^{*1}, Kido, Y. ^{*1}, Yabu, Y. ^{*3}, Suzuki, T. ^{*3}, Watanabe, Y. ^{*1}, Saimoto, H. ^{*4}, Akiyama, H., Kita, K. ^{*1}
^{*1}University of Tokyo, ^{*2}Obihiro University, ^{*3}Nagoya City University, ^{*4}Kumamoto University
Trypanosome alternative oxidase, a potential therapeutic target for sleeping sickness, is conserved among Trypanosoma brucei subspecies. (アフリカ睡眠病の薬剤標的酵素 Trypanosome alternative oxidase は Trypanosoma brucei 原虫亜種間で保存されている)
Parasitology International, **59**, 560-564 (2010)

(薬理部)

- Kurebayashi, H., Okudaira, K.* , Ohno, Y.
*Toho University
Species difference of metabolic clearance of bisphenol A using cryopreserved hepatocytes from rats, monkeys and humans (ラット, サル, ヒトの凍結肝細胞を用いて算出したビスフェノールAの代謝クリアランスの種差)
Toxicology Letters, **198**, 210–215 (2010)

(病理部)

- Hibi, D., Imazawa, T.* , Kijima, A., Suzuki, Y., Ishii, Y., Jin, M., Umemura, T., Nishikawa, A.
*独立行政法人 医薬基盤研究所
Investigation of Carcinogenicity for Levamisole Administered in the Diet to F344 Rats(F344 ラットを用いたレバミゾールの2年間発がん性試験)
Food and Chemical Toxicology. **48**(12), 3321-3326 (2010)
- Okamura, T., Ishii, Y., Suzuki, Y., Inoue, T., Tasaki, M., Kodama, Y., Nohmi, T., Mitsumori, K.* , Umemura, T., Nishikawa, A.
*東京農工大学
Enhancing effects of carbon tetrachloride on *in vivo* mutagenicity in the liver of mice fed 2-amino-3,8-dimethylimidazo[4,5-f]quinoxaline (MeIQx)
(マウス肝臓におけるMeIQxの*in vivo*変異原性に対する四塩化炭素の促進効果)
J. Toxicol. Sci. **35**(5), 709-720 (2010)
- Okamura, T., Ishii, Y., Suzuki, Y., Inoue, T., Tasaki, M., Kodama, Y., Nohmi, T., Mitsumori, K.* , Umemura, T., Nishikawa, A.
*東京農工大学
Effects of co-treatment of dextran sulfate sodium and MeIQx on genotoxicity and possible carcinogenicity in the colon of p53-deficient mice (p53欠失マウス大腸におけるMeIQxの遺伝毒性ならびに発がん性へのDSS併用投与の影響)
J. Toxicol. Sci. **35**(5), 731-741 (2010)
- Yahia D^{*1,2}, El-Nasser MA^{*1}, Abedel-Latif M^{*1}, Tsukuba C^{*2}, Yoshida M, Sato I^{*2}, Tsuda S^{*2}.
*¹Department of Forensic Medicine and Toxicology, Faculty of Veterinary Medicine, Assiut University, Assiut, Egypt, *²Department of Veterinary Medicine, Faculty of Agriculture, Iwate University
Effects of perfluorooctanoic acid (PFOA) exposure to pregnant mice on reproduction. (妊娠期マウスのPFOS曝露による繁殖への影響)
J. Toxicol. Sci. **35**(4), 527-533 (2010)

3. 誌上発表(総説・解説等)

(生物薬品部)

- 石井明子, 川崎ナナ
バイオ治験薬の品質・安全性確保
ファームテクジャパン, **26**(11), 69-80 (2010)

(食品衛生管理部)

- 野田 衛
ノロウイルスと病院給食-給食スタッフ・食品業者への指導を中心に感染症対策 ICT ジャーナル, **18**, 397-403(2010)

(衛生微生物部)

- 小西良子
食品を汚染するカビ毒の現状と対応
生活衛生, **54**(4), 285-597 (2010)

(有機化学部)

- 奥田晴宏, 川崎ナナ, 内田恵理子, 山本美智子*¹, 宮田直樹*²
*¹ 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構, *² 名古屋市立大学大学院薬学研究科
薬の名前 ステムを知れば薬がわかる 最終回
PHRAM. TECH. JAPAN, **26** 1927-1936 (2010)

(機能生化学部)

- 最上 (西巻) 知子
HDL 産生トランスポーターABCA1 の肝での二重転写制御機構
生化学, **82**(9), 852-856 (2010)

(代謝生化学部)

- 中村公亮
種間の相違や個体差を生むゲノム DNA メチレーション
ぶんせき, No.3, 153 (2010)
- 中村亮介
アレルギー試験法
ぶんせき, No.10, 506 (2010)

(安全情報部)

- 畝山智香子
子育て中の母親といわゆる健康食品や食情報
健康食品管理士認定協会会報 **5**(4) 26-31 (2010)

4. 単行本

(代謝生化学部)

- 手島玲子
第2章: 食物アレルギーの原因物質: ウリ科の果物類、セリ科の野菜類、ウリ科の野菜類、とうもろこし、 α -アミラーゼ: 中村丁次ら
編集 **食物アレルギーA to Z 医学的基礎知識から代替食献立まで**
第一出版, 東京, 2010, p81, p87, p89, p90
- 佐藤里絵、手島玲子
第2章: 食物アレルギーの原因物質: そば: 中村丁次ら編集 食物アレルギーA to Z 医学的基礎知識から代替食献立まで
第一出版, 東京, 2010, p65
- 安達玲子
第2章: 食物アレルギーの原因物質: バナナ、バラ科の果物類: 中村丁次ら編集 食物アレルギーA to Z 医学的基礎知識から代替食献立まで
第一出版, 東京, 2010, p79,
- 穂山浩
第2章: 食物アレルギーの原因物質: 大豆、落花生・種実類: 中村丁次ら編集 食物アレルギーA to Z 医学的基礎知識から代替食献立まで
第一出版, 東京, 2010, p67, p74
- 安達玲子、穂山浩、手島玲子
第4章: アレルゲンの検査法: 中村丁次ら編集 食物アレルギーA to Z 医学的基礎知識から代替食献立まで
第一出版, 東京, 2010, p137

5. 学会・講演等

(薬品部)

- 加藤くみ子、齋藤栄子、竹内豊英*¹、川西徹
*¹ 岐阜大学工学部
モノリス型キャピラリーカラムを用いたナノ粒子のサイズ分離手法の

開発

第 21 回クロマトグラフィー科学会議 (2010.10 兵庫県西宮市)

(生物薬品部)

- Yuzhe, Y.*, Terasawa, T.*, Maeda, Y.*, Monde, K.*, Yusa, K., Harada, S.*
*熊本大学大学院医学薬学研究部

Complete resistance to maraviroc in R5 HIV-1 with gp120 V3 Loop mutations is affected by T199K and/or T275M in Env (R5 HIV-1 の maraviroc 高度耐性は V3 変異をもち T199K や T275M 変異によって影響される)

11th KUMAMOTO AIDS Seminar GCOE Joint International Symposium (第 11 回熊本エイズセミナー・エイズ GCOE 国際シンポジウム)(2010.10) (熊本県阿蘇市)

(生薬部)

- Goda, Y.
Pharmacopoeial Topics in Japan from 2009 to 2010 (日本薬局方に関するトピック 2009-2010)
The 8th Standing Committee Meeting of the Western Pacific Regional Forum for the Harmonization of Herbal Medicines、香港 Harbour Grand Hong Kong Hotel (2010.10)

(医療機器部)

- 松岡厚子
医療機器の生物学的安全性試験の国内規制と国際整合化
第 4 回秦野研究所 医療機器安全性試験セミナー、(神奈川県秦野市, 2010・10)

(生活衛生化学部)

- 西村哲治
わが国における水環境中の医薬品類の実態
第 43 回日本薬剤師会学術大会、(2010.10, 長野)

(食品部)

- 根本 了
食品に残留する農薬等の公示試験法の開発について
日本農薬学会第 33 回農薬残留分析研究会、(千葉, 2010,10)
- 根本 了
加工食品中の残留農薬分析法について
農産物の品質及び安全性国際シンポジウム-中日農薬残留分析交流会
(主催: 中国農業部科学技術発展センター、中国農学会、上海市農業科学院) (中国上海市, 2010,10)
- 渡邊敬浩
トランス脂肪酸の分析法について
トランス脂肪酸の情報開示に関する指針(案)に係る説明会
(主催: 消費者庁食品表示課) (東京, 2010,10)

(食品衛生管理部)

- 野田 衛
最近の食品媒介ウイルスに関する話題
(社)食品衛生登録検査機関協会平成 22 年度特殊技術研修会 (2010.10) (国民生活センター, 相模原)

(衛生微生物部)

- 大塚佳代子^{*1}、齊藤志保子^{*2}、大友良光^{*3}、山崎省吾^{*4}、八尋俊輔^{*5}、岩出義人^{*6}、西尾智裕^{*7}、杉山寛治^{*7}、田中廣行^{*8}、中川 弘^{*9}、小沼博隆^{*10}、熊谷 進^{*11}、小西良子、工藤由起子。
^{*1} 埼玉県衛生研究所、^{*2} 秋田県健康環境センター、^{*3} 弘前大学、^{*4} 長崎県環境保健研究センター、^{*5} 熊本県保健環境科学研究所、^{*6} 三重県保健環境研究所、^{*7} 静岡県環境衛生科学研究所、^{*8} (財) 日本食品分析センター、^{*9} (株) BML フード・サイエンス、^{*10} 東海大学、^{*11} 東京大学

日本における腸炎ビブリオ食中毒の発生状況と魚介類及び患者由来株の解析.

第 100 回日本食品衛生学会. (2010・9 熊本)

- 高橋素子^{*1}、上田成子^{*2}、斉藤美佳子^{*3}、宮原美知子、伊藤雅代^{*4}、山本恭子^{*5}、竹下朱美^{*6}

^{*1} 東大名誉教授、^{*2} 女子栄養大学、^{*3} 東京農工大学、^{*4} アクアス (株)、^{*5} 園田学園女子大学、^{*6} TOTO (株)

日本防菌防黴学会・女性研究者の活動報告

日本防菌防黴学会第 37 回年次大会(2010.9) (東京都品川区)

- 小西良子

Current topics of food poisoning in Japan: Mycotoxins and Marine toxins (日本における食中毒に関する今日の話題: マイコトキシンとマリントキシン)

2010 International Symposium (韓国ソウル, 2010.10)

(有機化学部)

- 山縣奈々子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 長澤和夫^{*1}, 土井光暢^{*2}, 田中正一^{*3}, 奥田晴宏, 栗原正明

^{*1} 東京農工大院工, ^{*2} 大阪薬大, ^{*3} 長崎大院医歯薬

タンパク質間相互作用を制御する安定化ヘリカルペプチドの創製

第 54 回日本薬学会関東支部大会 (2010.10) (東京都八王子市)

- 栗原正明, 出水庸介, 佐藤由紀子, 花尻瑠理, 合田幸広, 奥田晴宏

定量的構造活性相関 (QSAR) 等による違法薬物の活性予測

第 54 回日本薬学会関東支部大会 (2010.10) (東京都八王子市)

- 今井耕平^{*1}, 中西聡美^{*2}, 中西郁夫^{*3}, 安西和紀^{*3,4}, 増野匡彦^{*2}, 奥田晴宏, 中村朝夫^{*1}, 福原潔

^{*1} 芝浦工大院工, ^{*2} 慶應大薬, ^{*3} 放医研, ^{*4} 日本薬大薬

平面型カテキン-塩基性アミノ酸付加体の合成と抗酸化活性

第 54 回日本薬学会関東支部大会 (2010.10) (東京都八王子市)

- 奥田晴宏

製剤設計から商用生産までの一貫性に関する規制の現状と未来に向けた新しい技術の投入に関する期待

製剤機械技術研究会 20 周年記念大会

東京都江戸川区 (2010.10)

(代謝生化学部)

- 西和田淳^{*}、平田晴之^{*}、陳内理生^{*}、藤澤幸平^{*}、中村公亮、石原智明^{*}
^{*}酪農大

イヌ赤血球置換マウスを利用したヒグマからの Babesia 原虫のクローニング

日本獣医寄生虫学会・第 150 回日本獣医学会学術集会 (2010.9) (北海道帯広市)

- 手島玲子

遺伝子組換え食品等のアレルギー性・腸管免疫影響のインビトロ評価系の開発

平成 22 年度食品健康影響評価技術研究成果発表会 食品安全委員会 (2010.10) (東京)

- 手島玲子

Regulation of foods containing allergens in Japan (日本におけるアレルギーを含む食品の規制について)

Symposium on "Frontiers in Food Allergen Risk Assessment" (2010.10) (Nice, フランス)

(安全情報部)

- 畝山智香子

食品中化学物質のリスク

日本農芸化学会関西支部シンポジウム (2010.10) (京都)

- 窪田邦宏
食品衛生関連情報の効率的な収集とその活用
静岡県平成 22 年度食品衛生監視員研修会（静岡, 2010.10)
- (医薬安全科学部)
 - 前川京子, Gay, S.C.*¹, Roberts, A.G.*¹, Talakad, J.C.*¹, Hong, W.X.*², Zhang, Q.*², Stout, C.D.*², Halpert, J.R.*¹
*¹カリフォルニア大学サンディエゴ校、*²スクリプス研究所
ウサギ GYP2B4 の精製及び抗血小板薬クロピドグレルとの X 線結晶構造解析
日本薬物動態学会第 25 回年会（2010.10）（埼玉県さいたま市）
 - 頭金正博、佐伯真弓、長谷川隆一、斎藤嘉朗、黒瀬光一
MDR1 遺伝子のエピジェネティックな発現制御機構
日本薬物動態学会第 25 回年会（2010.10）（埼玉県さいたま市）
- (毒性部)
 - Polouliakh, N.*¹, Kanno, J., Matsuoka, Y.*², Aisaki, K., Nock, R.*³, Nielsen, F.*¹, Oka, K.*⁴, Ghosh, S.*², Kitajima, S., Kitano, H.*^{1,2}.
*¹Sony Computer Science Laboratories., Japan, *²Systems Biology Institute, Japan, *³GEREGMIA-Univ, France, *⁴Tokyo University, Japan
Discovery of Gene Network Regulated by the Toxicity Equivalent Factor of 2,3,7,8-Tetrachlorodibenzo-*p*-Dioxin (TCDD) and 2,3,7,8-Tetrachlorodibenzofuran (TCDF) chemicals.（ダイオキシン類である TCDD と TCDF の毒性等価係数による制御遺伝子ネットワークの発見）
The 11th International Conference on Systems Biology（2010.10）（Edinburgh, UK）
 - Yasuhiko, Y., Kanno, J., Saga, Y.*
*National Institute of Genetics（国立遺伝学研究所）
BRACHYURY REPRESSES MESP2 EXPRESSION IN MOUSE TAILBUD IN SOMITEGENESIS（転写因子ブラキュリーはマウス体節形成において尾芽での Mesp2 発現を抑制する）
Mouse Development, Genetics and Genomics. (2010.10)(New York, USA)
 - 菅野 純
ケミカルバイオロジーとしての Percellome Toxicogenomics Project
第 24 回「ケミカルバイオロジー研究領域」勉強会
埼玉県和光市（理化学研究所）(2010.9)
- (薬理部)
 - 佐藤 薫, 重本-最上由香里, 大野泰雄, 関野祐子
生後初期の脳発達におけるミクログリアの役割
第 29 回内藤コンファレンス（2010.10）（湘南国際村センター, 神奈川県三浦郡）内藤記念科学振興財団
 - 高橋華奈子, 中澤憲一, 野澤-石井玲子*, 竹内幸一*, 関野祐子, 佐藤 薫
*明治薬科大学
ナイフルミック酸によるアストロサイトグルタミン酸トランスポーター EAAT1 電流調節機構の解明
第 29 回内藤コンファレンス（2010.10）（湘南国際村センター, 神奈川県三浦郡）内藤記念科学振興財団
 - 小島 肇
パイロジェン試験
大阪医薬品協会技術研究委員会（2010.10）（薬業年金会館、大阪市中央区）
- (変異遺伝部)
 - Sassa, A., Niimi, N., Fujimoto, H.*¹, Katafuchi, A., Gruz, P., Yasui, M.,

Gupta, R.C.^{*2}, Johnson, F.^{*2}, Ohta, T.^{*2}, Nohmi, T.

^{*1} 国立感染症研究所, ^{*2} Stony Brook University, ^{*3} 東京薬科大学

Phenylalanine 171 as a molecular brake for dCMP insertion opposite benzo[a]pyrene-guanine adducts by human DNA polymerase kappa (ベンツピレンのグアニン付加体の向かいへの dCMP を挿入に対するヒト DNA ポリメラーゼ κ による分子ブレーキとしての 171 番目のフェニルアラニン)

The 7th 3R(Replication, Recombination, & Repair) Symposium, (2010・10, 富山市) 主催阪大蛋白研、後援日本科学振興財団・内藤財団

○ Honma, M.

The Principal Approaches to Genotoxic Hazard Assessment of Nanomaterials in Japan (日本でのナノ物質の遺伝毒性評価における原則的アプローチ)

Genotoxicity of Nanomaterials: Refining Strategies and Tests for Hazard Identification Workshop in 41st Annual Meeting of Environmental Mutagen Society、(フォートワース・米国、2010・10)

6. レギュラトリーサイエンス関連国際会議報告

(生薬部)

○ 合田幸広

The 8th Standing Committee Meeting of the Western Pacific Regional Forum for the Harmonization of herbal Medicines (生薬の国際調和に関する西太平洋地区討論会運営会議)

香港 (中国), 2010 年 10 月 28 日~29 日

公定規格におけるクリーンアナリシスの推進を行うこと, ADR についての情報交換を行うこと等を合意するとともに, 次回を開催国をベトナムと仮決定した. ベトナムが困難な場合には, 中国が開催国となることが同意された.

(医療機器部)

○ 松岡厚子、植松美幸

74th International Electrotechnical Commission (第 74 回国際電気標準会議)

シアトル (アメリカ合衆国), 2010 年 10 月 8 日~12 日

4 年に 1 回の総会も同時開催のため 2600 人の参加、100 以上の TC 及び SC が開催された。IEC/SC 62B/MT 34 (超音波診断装置) 及び SC 62D/MT 18(治療装置) に出席し集束強力超音波の基本的安全性及び必須仕様に関する個別要求事項の策定を行った。

(薬理部)

○ 小島 肇

33rd Meeting of ECVAM Scientific Advisory Committee (ESAC). (第 33 回欧州代替法バリデーションセンター科学顧問委員会会議)

イスプラ (イタリア), 2010 年 10 月

発癌性試験のための代替法である形質転換試験の第三者評価, 眼刺激性試験代替法 BCOP (牛摘出角膜試験) の国際相互認証に関する討論がなされた.

○ 小島 肇

5th ICATM Coordination Meeting. (第 5 回国際代替法協力組織調整会議)

イスプラ (イタリア), 2010 年 10 月

紹介された各国の活動状況から, 現存する問題点を共通認識し, ICATM の具体的な運営方法について討論がなされた.

○ 小島 肇

OECD Expert Consultation Meeting on Skin Irritation and Corrosion for

In Vivo & In Vitro Testing. (OECD 皮膚刺激性及び腐食性試験に関する
専門家会議)

ベルリン (ドイツ), 2010 年 10 月

in vitro 皮膚刺激性試験ガイドライン No.439 の適用範囲および Integrated
Testing Strategy (ITS: 試験法の統合戦略)を用いた動物実験の置換
えに関する討論がなされた。

- 簾内桃子

ECVAM (European Center for the Validation of Alternative Methods ;
欧州代替法検証センター) 第 3 回薬物動態・毒性代替法会議 ;

ヒト凍結 HepaRG 細胞および凍結ヒト肝細胞を用いた CYP 誘導試験法
の

バリデーション実施に向けた最終検討会議

イスプラ (イタリア), 2010 年 9 月 16 日~17 日

欧州における薬物動態・毒性代替法; CYP 誘導試験のプレバリデーショ
ン結果について討議した。バリデーション試験の開始に向け最終協議を
行い、実施内容を確認した。結果は、2011 年 9 月の次回会議において
報告される予定である。また、バリデーション後に向けて、薬物動態・
毒性予測に必要な検討課題について討議した。

(病理部)

- 小川久美子

VICH safety eWG (ARfD) (動物用医薬品承認基準国際化対応委員会
安全性専門委員会 急性参照用量専門作業部会)

(ワシントン DC, 2010・10)

動物用医薬品の急性参照用量算出に関するガイドラインについて協議
を行い、方針と原案の策定をおこなった。

(総合評価室)

- 広瀬明彦

European Food Safety Authority (欧州食品安全機関) のナノテクノロ
ジ-の健康影響評価手法のガイダンス作成のための第 10 回科学委員
会ワーキンググループ会議

ベルギー (ブリュッセル)、2010 年 10 月 13 日~10 月 14 日
ナノテクノロジーガイダンスに関する EFSA (欧州食品安全機関) 科学
委員会ワーキンググループ (第 10 回) に出席し、食品分野における安
全性評価のためのガイダンス作成に向け、上部の科学委員会から意見へ
の対応案について討議を行った。

- 小野 敦、広瀬 明彦

OECD SIAM・QSAR 合同会合

英国 (オックスフォード)、2010 年 10 月 19 日

OECD 高生産量物質初期評価会議 (SIAM) と OECD QSAR アプリケー
ションツールボックスマネジメントグループの合同会合に出席し
て、我が国で行っている QSAR 研究事例の紹介を行うと共に、QSAR
の結果を SIAM のドキュメントに反映させるための可能性について討
議を行った。

- 広瀬明彦

第 31 回 OECD 高生産量化学物質初期評価会合

英国 (オックスフォード)、2010 年 10 月 20 日~10 月 22 日

第 31 回 OECD 高生産量物質初期評価会議に出席して、我が国が担当
している化学物質 (4 物質) を含む各国からの反復・生殖毒性データや
変異原性データおよび環境毒性データを取りまとめた評価文章に関し
ての討議を行い、その結果各物質の SIAP および ITAP 文書が合意され
た。

- 小野 敦

タンパク結合アラートの専門家コンサルテーション会議

英国（オックスフォード）、2010年10月20日
OECD QSAR ツールボックスのために新たに提案されたタンパク結合アラート及びタンパク結合性実験データとしてBIACから提供された *in vitro* GST 結合試験データについて3名のレビューワーのレビュー結果をもとにツールボックスへの組み込みについて議論を行い、いずれも有用であると結論された。

○ 小野 敦

第4回(Q) SAR アプリケーション・ツールボックス・マネジメント・グループ会議

英国（オックスフォード）、2010年10月21日
OECD QSAR ツールボックスの次期開発計画について議論を行った。次回開発では、主に混合物や互変体に対する評価、予想される水酸化物や分解物に対する評価を行う機能の開発が提案され、いずれも有用性が高い機能として了承された。